

# 知っていますか 東京の農業用水



## ～はじめに～

### 《 趣旨 》

農業用水は主に水田に利用され、農作物の生産性向上などに大きな役割を果たしています。現在でも都内には75用水があり、それらの用水施設は、用水組合や自治体、住民の皆さんの協力など、様々な体制で維持管理が行われています。

東京の水田は、昭和25年に7,000ha以上ありましたが、今では約270haまで減っており、農業用水の利用量も減少しつつあります。

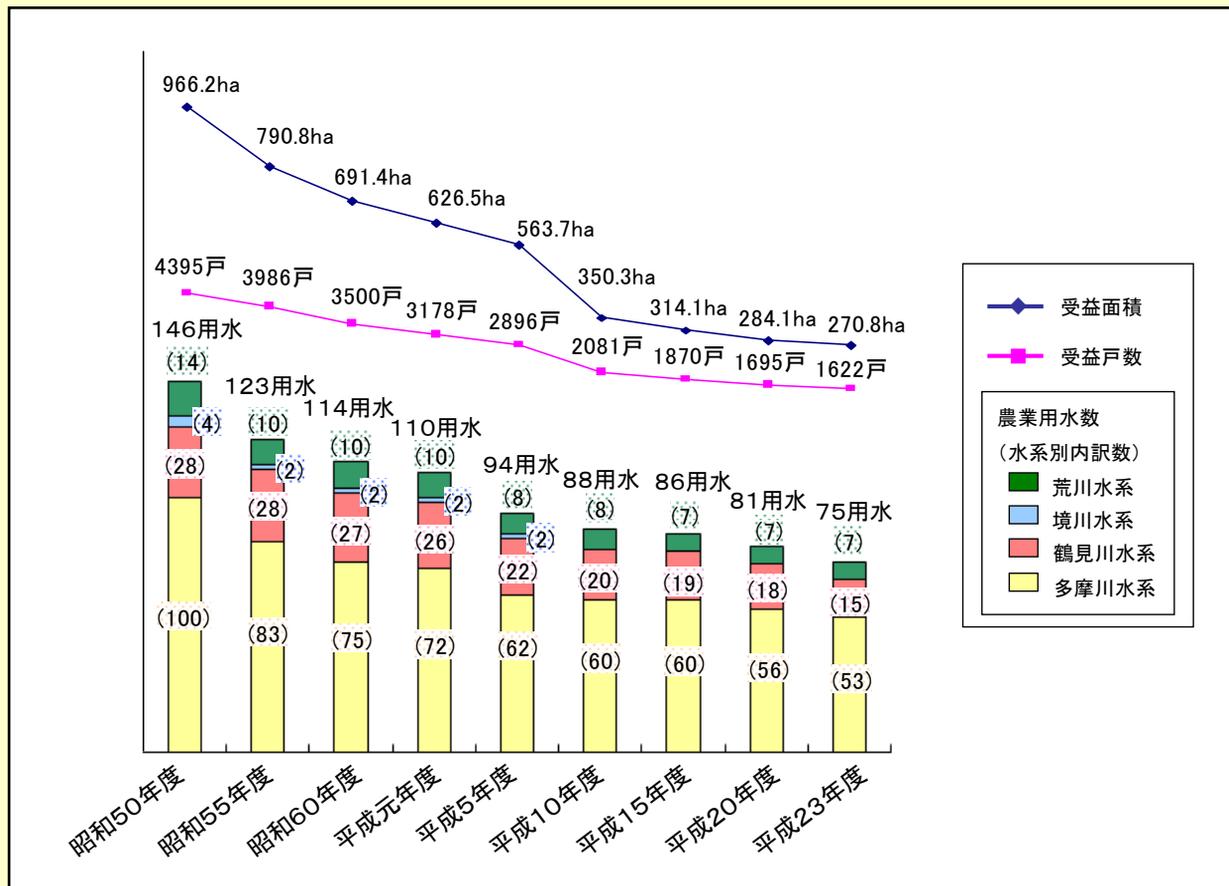
一方、近年では農業用水の多面的機能(※1)が見直され、親水空間や美しい景観を提供し、さらに、防火用水に活用するなど、地域に欠かせない大切な存在となっています。

今回、多くの都民の皆さんに都内の農業用水の存在を知っていただくため、市街地を流れる代表的な4つの農業用水を紹介します。

※1(多面的機能): 農地や農業用水がもつ、防災、景観、親水などの多様な機能

### 《 農業用水を取り巻く状況 》

農業用水数と受益面積等の推移

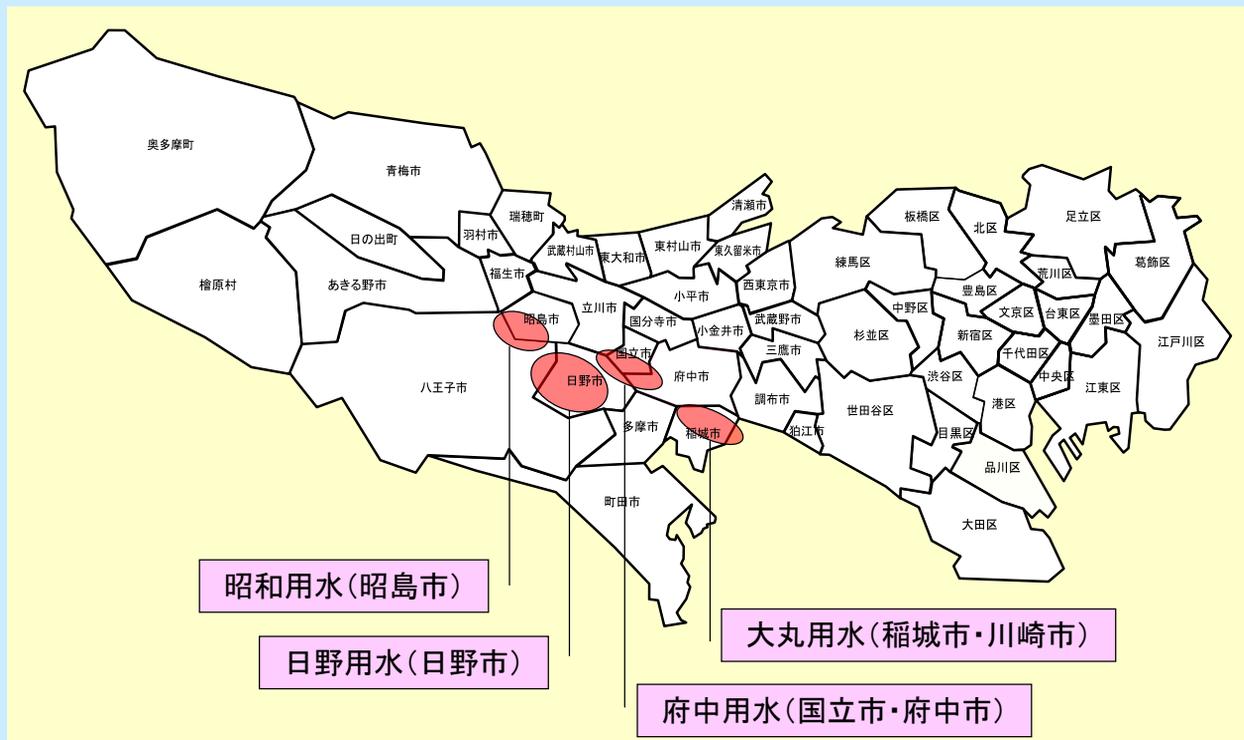


「東京都農業用水取水実態調査」より (調査基準日は各年度の2月1日)

## 《 東京都の代表的な農業用水 》

今回紹介する4つの農業用水は、いずれも多摩川本流から取水する、比較的規模の大きな用水です。その取水施設は都営事業で造成し、現在は土地改良区(※1)が管理しています。

※1(土地改良区): 農業用水堰や圃場の整備に伴い設立され、それら施設を維持管理している公共法人。東京都にはここに紹介する4つのほか、小庄用水(あきる野市)を管理する五日市土地改良区がある



## 《 用水の紹介 》

	ページ
昭島用水:昭島用水土地改良区(昭島市)	4
日野用水:日野用水土地改良区(日野市)	7
府中用水:府中用水土地改良区(国立市・府中市)	10
大丸用水:大丸用水土地改良区(稲城市・川崎市)	13

### 農業用水の多面的機能 ~豊かな生態系~

東京都では毎年、農業用水の数箇所において『田んぼの生きもの調査』を行っており、様々な種類の魚やカエル等が見つかっています。

なかには『東京都の保護上重要な野生生物種』～東京都レッドリスト～(東京都環境局)により絶滅が危惧される種に分類されているものも見られ、田んぼやそれを潤す農業用水が、生き物にとって大切な生息域となっていることが分かります。



▲調査で見つかったオイカワ

【生きもの調査を紹介しているホームページ】

・東京都 <http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/norin/nogyo/tanbo/index.html>



## 昭和用水の概要

多摩川にある昭和用水堰を取水口とする昭和用水は、かつては九ヶ村（現在の昭島市、立川市となっている拝島、田中、大神、宮沢、中神、築地、福島、郷地、柴崎）をかんがい（※1）していたことから、九ヶ村用水（立川堀）と呼ばれていました。

九ヶ村用水の成立は比較的早く、室町時代に用水路の原形が作られ、延宝元年～8年（1673年～80年）頃の江戸時代には完成したと言われています。

用水の延長は約8kmで、熊川村（現在の福生市）で取水された多摩川の水は拝島村の冢樋（いりひ）（※2）から引き入れられ、九ヶ村の田畑をかんがいし、柴崎村（現在の立川市）で多摩川に戻っていました。

※1（かんがい）：農地に外部から人工的に水を供給すること

※2（冢樋（いりひ））：水を引き入れたり出したりするために設けた水門の樋（とい）（※3）

※3（樋（とい））：河川湖沼の水を放出・流下させるための水門及び管のことで地表に溝などを掘って流水できない場合などに作られた



【自然豊かな水路】



【昭和用水の取水堰】



【景観に配慮した水路】

# 昭和用水(昭島市)略図



## 用水が流れる地域の概要

本地域は多摩川の中流域に位置し、武蔵野台地(※1)の境目である立川崖線(※2)と多摩川に挟まれた、東西方向に細長く近郊農家の水田や畑作地が広がる地域です。

また、昭和用水堰付近は川の水もきれいで、河川敷には草木が生い茂り、野鳥や昆虫も数多く生息しており、釣りやバードウォッチングを楽しむ人々の憩いの場にもなっています。

※1(武蔵野台地): 関東平野西部の荒川と多摩川に挟まれた地域に広がる台地

※2(崖線(がいせん)): 段丘(※3)の端に沿って延々と続く崖(がけ)の様子

※3(段丘(だんきゅう)): 川、湖、海などに面してできる階段状の地形



【改修前の昭和用水堰】



【改修後の昭和用水堰】

## 昭和用水の歴史

昭和初期に多摩川の水量が減って、九ヶ村用水の取水口では十分に取水できなくなったことから、昭和8年(1933年)に現在の位置に木製の昭和用水堰が設置され、昭和30年(1955年)にはコンクリート堰として改築されました。

この取水地点は多摩川と秋川の合流点にあり、両方の河川から水を取り入れており、この水は昭和用水として現在でも地域の田畑を潤しています。

また、平成12年(2000年)には、昭和用水堰に新しい魚道(※1)が完成しました。

※1(魚道):ダムや堰など魚の行き来が妨げられる箇所に設けられる、勾配を緩やかにしたり、流速を抑えるための河川内工作物



【田植え風景(昭和40年代)】



【現在の田園風景】



【景観に配慮した水路】

## 現在の昭和用水

室町時代から農業用水として利用されてきた昭和用水も、宅地化などにより田畑が激減したため、本来のかんがい機能が薄れてきました。

しかし、親水緑道が整備され、地域住民の憩いの場を提供しており、また市民団体である「ホタルの会」により、水路の保全活動も盛んに行われています。

### 【昭和用水を紹介しているホームページ】

・昭島市

<http://www.city.akishima.lg.jp/1140guide/shousai/00050Ecourse.htm>

・京浜河川事務所

<http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/index.html>



【昭和用水沿いのウォーキングマップ】



ひのようすい

# 日野用水

## 日野用水の概要

日野用水は、室町時代後期の永禄10年(1567年)に、当時この地域を支配していた滝山城主北条氏照の力を借りて、佐藤隼人(※1)が開削した農業用水です。

この用水は多摩川から取水し、上堰と下堰を合わせた総延長は約39km(幹線約12km)に及びます。440年余り経った今でも同じ場所を流れ続けていますが、周辺の農地が宅地などに変わるにつれて、農業用水の機能に加え、地域住民が親しめる水辺として貴重な空間となっています。

※1(佐藤隼人(さとうはやと)):美濃国(岐阜県)の出身で、斎藤道三に仕えていた武士



【玉石護岸で景観に配慮した水路】

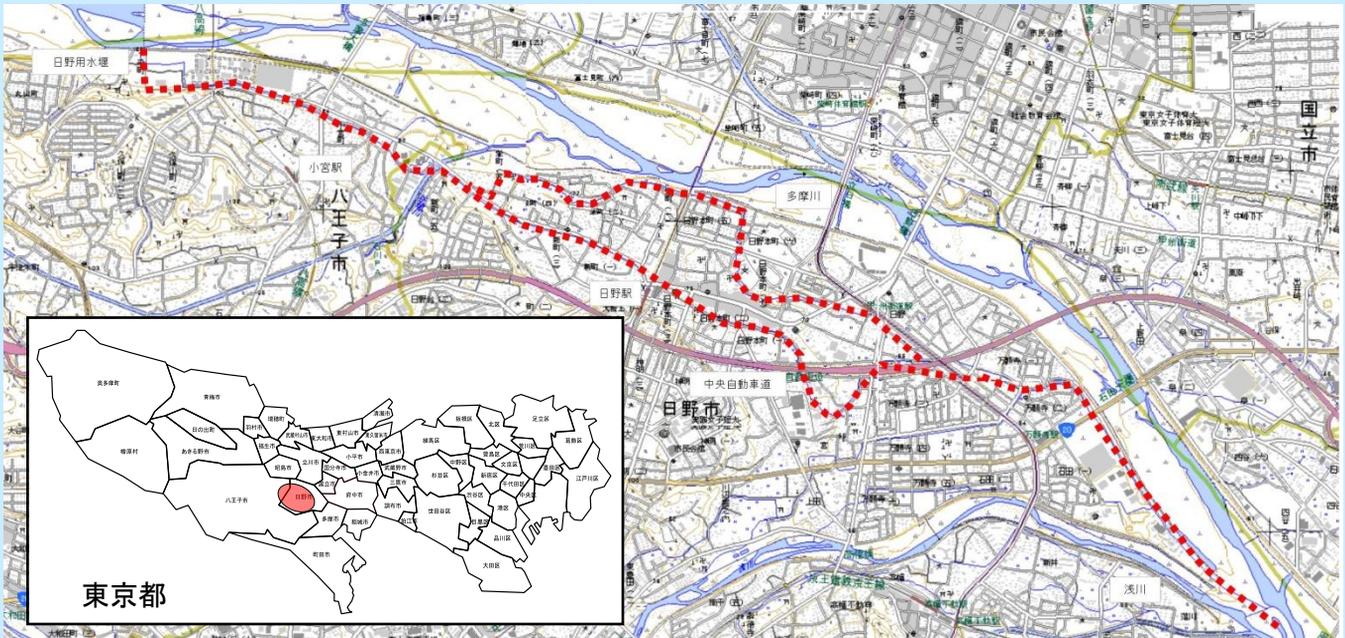


【釣りも楽しめる工夫をした水路】



【都道沿いの水路も親水化】

# 日野用水(日野市)略図



## 用水が流れる地域の概要

江戸時代頃の日野市は、多摩川と浅川から引かれた農業用水が網の目のように流れていました。また、崖線からの湧水に恵まれ、この水を利用した水田地帯は、多摩の米蔵と呼ばれた穀倉地帯でした。

しかし、昭和に入り企業の進出が始まり、高度経済成長期には大量に労働人口が流入し、それに伴って宅地造成が進み、工場や住宅からの雑排水が用水路に流れてくるようになり、用水の水質が悪化してきました。

このようなことから日野市では、昭和51年に「清流条例」(通称)を制定し、水質浄化に取り組み、さらに、水辺のビオトープ(※1)や親水公園など、市民が親しめる施設整備を行い、用水の日常的な管理も「用水守」(※2)として市民ボランティアと市が一体となって進めています。

※1(ビオトープ): その土地に昔からいた様々な生物が生息し、自然の生態系が機能する空間  
最近では人工的に作られた植物や魚、昆虫が共存する空間を呼ぶことが多い

※2(用水守): 日野市の登録制のボランティアで、農業用水へのゴミの不法投棄や水路の詰まりなど日常的に市へ報告する制度



【親水護岸に整備された用水路】



【八王子市平町にある取水口】



【用水路を取入れた親水公園】

## 日野用水の歴史

日野用水によって潤されるこの地域は、江戸時代には幕府が直接支配する土地(天領)になるなど、経済的に重要な地域でした。

江戸時代中期になると、日野領七ヶ村用水組合(※1)と拝島領九ヶ村用水組合(※2)との間で、用水堰をめぐる水争いがありました。宝永7年(1710年)に日野用水を現在の八王子市平町から取水することが幕府によって確定し、紛争は解消していきました。その後、取水口は数回の改修を経て、昭和37年(1962年)に今日の日野用水堰の原形が完成しました。

※1(日野領七ヶ村用水組合):現在の日野市周辺で日野用水を利用した集落

※2(拝島領九ヶ村用水組合):現在の昭島市、立川市周辺で昭和用水を利用した集落



【昭和30年頃の日野駅周辺と日野用水】



【現在の日野駅周辺(日野用水は暗渠に)】

## 現在の日野用水

かつての日野市は、農村の中にある宿場町で多摩の米蔵といわれていました。近年、多くの企業や大規模団地等の開発から首都圏の住宅都市に変貌をとげましたが、農家、市民、行政の努力で、今でも126kmの用水が市内を流れています。

現在の日野用水は、かんがい用水だけでなく、地域の親水施設として、水車や親水公園が造成されるなど、多くの人々に愛されています。

また、この付近は幕末に活躍した新選組(※1)副長土方歳三(ひじかたとしぞう)のふるさととしても有名です。

※1(新選組(しんせんぐみ)):江戸時代末期に、京都において反幕府勢力を取締まった治安部隊

### 【日野用水を紹介しているホームページ】

・日野市立日野図書館(日野宿発見隊)  
<http://www.hinoshuku.com/index.html>

・日野市観光協会  
<http://www.shinshenhino.com/>

・京浜河川事務所  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/index.html>



【日野用水沿いのウォーキングマップ 平成17年度作成】



## 府中用水の概要

府中用水は、江戸幕府による新田開発によって開削され、元禄6年(1693年)に完成しました。

この用水は、多摩川の日野橋下流から取水された河川水と、武蔵野台地西部の崖線からの豊かな湧水を受け入れ、国立市、府中市の田畑を潤しながら再び多摩川へ戻る延長約6kmの農業用水です。暗渠化(※1)された部分でも緑道や公園等として整備され、市民の散策コースや体験学習の場として利用されています。

現在も地域の人々に愛され、きれいな府中用水を保つために、土地改良区の組合員が中心となって定期的に清掃を行っています。

※1(暗渠(あんきょ)):地下に埋設された、あるいは地表にあっても蓋(ふた)をした水路



【用水沿いのウォーキング】

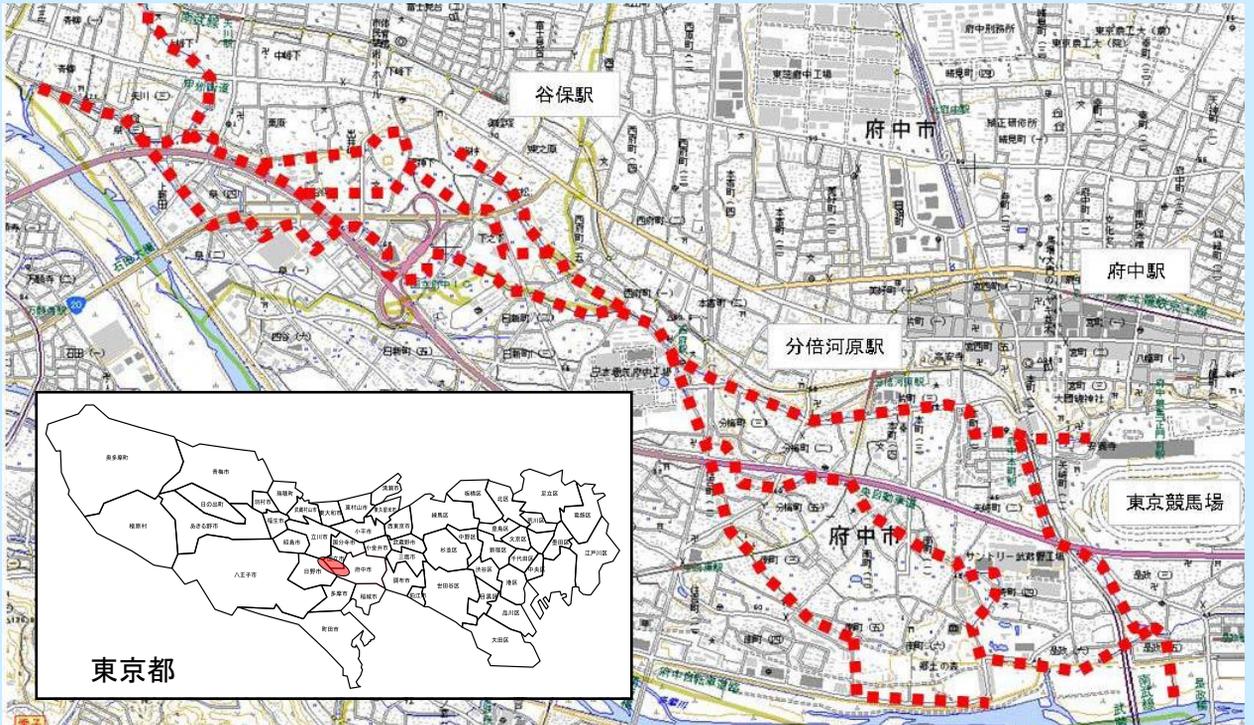


【幹線水路】



【水性植物が繁茂する水路】

# 府中用水(国立市・府中市)略図



## 用水が流れる地域の概要

府中用水が流れる国立市、府中市の武蔵野台地と、多摩川の間広がる沖積低地(※1)地域は、かつては多摩地域における豊かな米作地域で、農業用水は、生活用水としても用いられ生産と生活が一体となって地域社会を支えてきました。

しかし、急激な都市化により農地の減少や農業用水の暗渠化が進行しています。

※1(沖積低地(ちゅうせきていち)):主に河川による堆積作用によって形成された土地



【府中用水の本流①】



【国立市青柳にある取水口】



【府中用水の本流②】

## 府中用水の歴史

この地域でいつ頃から水稲耕作が始まったのかは定かではありませんが、条里制(※1)の痕跡が府中市付近に残存すると言われていることから、古代・中世より多摩川流域で水稲耕作がされていたと考えられます。

徳川家康が江戸を本拠地として江戸幕府を開くと、幕府経済の基礎となる米の増産を図るため新田開発に着手し、元禄6年(1693年)に府中用水は完成しました。

※1(条里制(じょうりせい)):古代から中世後期にかけて行われた土地区画制度のこと



【明治末期頃の府中用水】



【暗渠化され緑道を兼ねた現在の府中用水】

## 現在の府中用水

下水道整備に伴って一部暗渠化された府中用水の水路は、かんがい用水や生活用水に利用していた時代に比べ、身近な農業用水でなくなり、地域で大切に用水を守っていた人々の意識を薄めさせ、一部の心ない人によるゴミの不法投棄などを招く要因のひとつになりました。

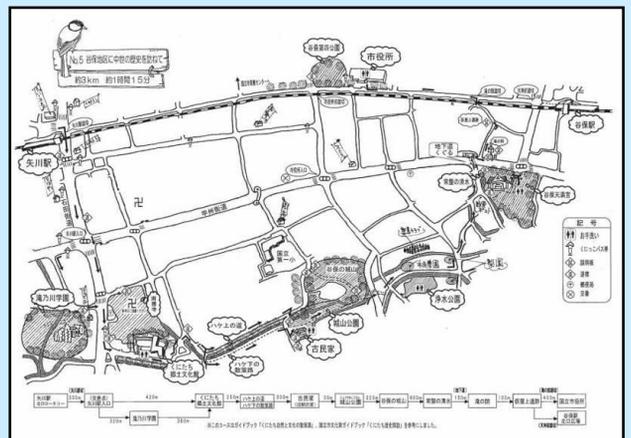
しかし、緑道や親水公園等の整備により、府中用水は都会のオアシスとなり、地域に愛されながら、府中用水は現在も水田に水を供給しています。

なお、府中用水は、東京都で唯一疏水百選(※1)にも選ばれています。

※1(疏水百選(そすいひゃくせん)):用水によりもたらされる“水・土・里”(みどり)を次世代に伝え、維持することを目的に、農林水産省が日本農業を支えてきた代表的な用水を約100カ所選定した

### 【府中用水を紹介しているホームページ】

- ・農林水産省  
[http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/midori/m\\_walk/course3/037fuc/](http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/midori/m_walk/course3/037fuc/)
- ・国立市  
<http://kunimachi.jp/kiji/2987>
- ・疏水百選  
<http://members.jcom.home.ne.jp/2231247101/fuchu-yosui.htm>
- ・京浜河川事務所  
<http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/index.html>



【府中用水ウォーキングマップ】



### 大丸用水の概要

大丸用水の開削工事は、かんがいと生活用水確保のために江戸幕府が行った大規模な治水政策の一環として、江戸時代初期頃に始まったとされています。

大丸用水は多摩川から取水し、9本の本流と約200本の支流を合わせると総延長は約70kmに及び、細かく分岐された水路は立体交差するなど、多くの農地に水を引く工夫がされてきました。

現在でもナシ園や水田等に水を供給しているほか、貴重な水辺空間として地域に親しまれています。



【散歩を楽しめる散策路】

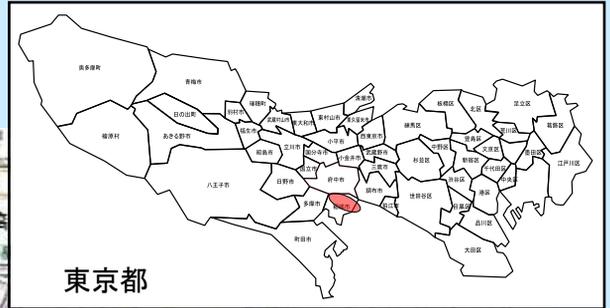


【用水沿いの花壇や植栽】



【立体的に交差する水路】

# 大丸用水(稲城市・川崎市)略図



## 用水が流れる地域の概要

大丸用水は、江戸時代には多摩川中流域の南側(右岸)、現在の東京都稲城市の5村(大丸村、長沼村、押立村、矢野口村、中野島村)と神奈川県川崎市多摩区の4村(菅村、上菅生村、五反田村、登戸村)の9村の農家が、農業用水として利用していました。

しかし、この地域も昭和30年代の後半からの急激な宅地化(多摩ニュータウン計画等)により水田は激減し、一時は用水もゴミの投棄などで汚れましたが、土地改良区の努力や地元の人々の協力等により現在は美しい用水の姿を取り戻し、小魚や水生植物も帰ってきました。

また、大丸用水の幹線の水を取り込んだ大丸親水公園は、その名のとおり、市民の憩いの場になっています。



【整備された大丸親水公園】



【散策道のある大丸親水公園】



【多摩川にある大丸用水堰】

## 大丸用水の歴史

江戸時代初期に開削された大丸用水は、9村の農家によって設立された「大丸用水九ヶ村組合」が管理し、利用していましたが、日照りや渇水時には少ない水をどう配分するかをめぐり、組合内で水争いが絶えませんでした。

しかし、用水の維持・管理は組合内で協力し合い、労働力や資材を負担して、堰や取水口、用水路等の修繕を行っていました。

享保12年(1727年)には、田中丘隅(たなかきゅうぐ)(※1)によって用水路の全面改修が行われました。用水の延伸に伴い新田開発が進み、徳川八代将軍吉宗の時代には、年貢徴収を目的とした新田検地(※2)が行われるようになりました。

※1(田中丘隅):江戸中期の農政家。八代将軍徳川吉宗に登用され、後に代官になった

※2(新田検地):新しい田畑に対し、面積と収穫量を調査すること

## 現在の大丸用水

江戸時代から農業用水として利用されてきた大丸用水も、急激な宅地化などにより田畑は激減しましたが、現在でも東京都稲城市から神奈川県川崎市多摩区までのナシ園や水田等に水を供給しています。

また、民家や水田等が用水路に接している箇所も多く、用水路沿いの小道は散策路や親水公園として整備され、市民の憩いの場になっています。



【子供達が集う親水公園】



【大丸地区の田植え風景】



【大丸用水沿いの散策路】

### 【大丸用水を紹介しているホームページ】

・稲城市

[http://www.city.inagi.tokyo.jp/shoukai/rekishi/bunkazai/05\\_bun\\_01.htm](http://www.city.inagi.tokyo.jp/shoukai/rekishi/bunkazai/05_bun_01.htm)

・京浜河川事務所

<http://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/index.html>



【大丸用水のウォーキングマップ】

～終わりに～

東京の農業用水は、水田や畑に利用されているだけではなく、水辺の生態系を保ち、地域に憩いの場を提供しています。

都市化の進展などで水田をはじめとした農地がなくなれば、農業用水もその役割を終え、農業用水がもっている多面的機能も失われてしまいます。

東京都は、地域の共有財産である貴重な農業用水が、後世に引き継がれるよう保全などに努めていきます。



【残したい農業用水のある風景】

登録番号(24)143

知っていますか 東京の農業用水

平成24年11月発行

発行 東京都産業労働局農林水産部農業振興課  
東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話 03(5320)4824 (ダイヤルイン)  
03(5321)1111 (代表) 内線 37-171

印刷 浦商印刷株式会社  
東京都文京区白山一丁目1番1号  
電話 03(3813)0101

この印刷物は再生紙を利用しています。  
この印刷物は石油系用材を含まないインキを使用しています。

**R100**  
自然の力で再生紙100%再生紙を印刷